

資 料

日本新産種ミヤコホウライタケ (*Marasmius echinatulus*) について

四手井 淑 子*

YOSHIKO SHIDEI*

Marasmius echinatulus, new to Japan

Summary

The small mushroom appeared in bamboo forest (*Phyllostachys nigra* var. *henonis*) was identified as *Marasmius echinatulus* Sing., new to Japan. Specimens have been kept in the private herbarium of Shidei, Kyoto, Field Museum of Natural History (F), Chicago, U.S.A. and Shiga University, Otsu.

筆者は1960年ごろから竹林の茸に興味を持ち調査してきたが、日本新産種と思われる茸が見付かったので報告する。

既往の報告を検討したところ、本菌は *Marasmius echinatulus* Singer と判明した。以下本菌の特徴及び発生状況を記す。

傘：径 10-35 mm, 朱がかかったオレンジ色, 乾性で, 吸水性 (hygrophanous) ではない。表面は平滑に見えるが, ルーペで観察すると細かな毛を密生し, ベルベット状。

ひだ：白, またはややクリーム色, 直生, 密。

柄：中心生, 中空, 下へ向ってやや太まり, 時に偏圧される。傘とほぼ同色であるが, 上部は淡色, 傘面と同様のベルベット状を呈し, 根元付近は白い直毛でおおわれている。

味とにおい：ともにほとんど無い。

顕微鏡的特徴

傘の表皮：ほうき状細胞から成るが, 長い剛毛 (160 μm まで) と, 前者との中間型の細胞が多数ある。剛毛は厚膜で上部はオレンジ色。

傘の実質：強い偽アミロイド反応あり。

孢子：紋は白, 7-8 \times 3-3.5 μm , 楕円形, 薄膜, 無色, 平滑, 非アミロイド。

縁システィディア：傘の表皮の剛毛に類似。

クランプ：少ないが存在する。

担子器：4 孢子をつける。20 \times 4.5-7 μm 。

* 〒607 京都市山科区厨子奥尾上町24. Zushioku onoe-cho 24, Yamashina-ku, Kyoto 607, Japan.



Figs. 1-6. *Marasmius echinatulus* Sing.

1. Fruitbodies (scale=1 cm), habit and section.

2. Basidia and spores (scale=5 μ m).

3. Epicuticular elements (scale=10 μ m).

4. Setae of stipe (scale=10 μ m).

5. Setae of gill edge (scale=10 μ m).

6. Hyphae of pileus trama (scale=10 μ m).

柄の表面：傘皮と同様の剛毛が全面にある。長さ 175 μm まで。

発生地：京都市山科区厨子奥尾上町^{やましなくずしおくのおえちよう}。ハチク林。

発生状態：落葉上に束生，まれに単生。

1976年5月15日—27日；1980年6月22日—7月9日；1981年5月11日—7月4日；1982年5月8日—13日；1983年4月29日—7月2日に発生。

標本は1983年6月11日に採集したものを自宅に，1983年5月3日採集のものはシカゴの Field Museum of Natural History (F) と一部は滋賀大教育学部 (K. Yokoyama no. 4098) に保管してある。

年によって差はあるが，大体気温が最高 20C，最低 10C を越えはじめたりで，多少の雨のあと発生するようである。

降水係数*をとってみると，大体係数3前後のころに発生。今までの竹林の茸の多くが降水係数5を越えたあたりで最盛であったのに比べると，少し高温，寡雨の方が良いように思える。発生前10日間の日平均気温 15–25, 6C の場合に発生している。

和名：ミヤコホウライタケ（新称）

Singer (1964) によると，*Marasmius echinatulus* は南米の南部（ボリビアのユンガス地方，ブラジル南部からアルゼンチン北西部）のシダ植物上，単子葉及び双子葉植物の葉上に普通にみられるという。

なお Singer 博士の記載とは二，三の相違があったので，標本，写真，図ならびに記載を同博士に送ったところ，同種とみとめる旨の返事をいただいた。

Singer 博士の記載と比較すると，日本産の本菌は傘のみぞ (sulcation) がほとんど無いこと，南米産のものは単生ないし群生するのに対し，日本産のものは束生する点が異なる。これらの点に関しては今後検討したい。

快く直ちに御返事を下さった Singer 博士に深く感謝すると共に，種々御指導頂き便宜をはかって頂いた滋賀大学本郷次雄教授，横山和正助教授，文献の閲覧に関しお世話になった京都大学中村信一助教授に厚く御礼申し上げる。

引用文献

Singer, R. 1958. Studies toward a monograph on the South American species of *Marasmius*. *Sydowia* **12**: 54–148.

———. 1965. Monographic studies on South American basidiomycetes, especially those of the east slope of the Andes and Brazil. 2. The genus *Marasmius* in South America. *Sydowia* **18**: 106–358.

(Accepted for publication 24 September 1983)

* 降水係数：旬間降水量を旬間平均気温で割った値。詳細は四手井：日菌報 **16**: 209 (1975) を参照。